

久保惣記念美術館ホームページ等の多言語化

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成29年度	<p>○久保惣記念美術館のホームページ、パンフレット及び館内案内板を多言語化対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ:2か国語(日・英)</li> <li>・パンフレット:6か国語(日・英・中・韓・仏・西)</li> <li>・案内板:4か国語(日・英・中・韓)</li> </ul> <p>○ホームページは、スマートフォンでの閲覧にも適した表示に整備した。</p>	<p>○ホームページは、今後の翻訳コスト等の運用経費を勘案し、美術館の基本的な情報と一年に一度更新する年間の展覧会情報のみを英語化し、長期的な運用が可能な環境を整えた。</p> <p>○英語以外の外国語話者に対しても美術館をアピールできるよう、多言語化したパンフレットをホームページに掲載した。</p> <p>○各国語版のパンフレットを、市の内外を問わず交流のある国公立美術館、市立美術館、研究機関等へ広く配布した。</p>	<p>○海外や訪日外国人に向けて美術館をアピールするツールを整備したことで、海外からのツアー客や外国メディアからの取材依頼があったなど、少しずつではあるが効果が現れている。</p>	<p>○インバウンドを積極的に誘致するためには、ターゲットを明確にした上で、他の観光施設と連携した取組が必要である。</p>

交付金事業の総括

KPIの達成状況を踏まえた取組の総括	<p>○平成29年度末にホームページ等を多言語化したことにより、平成30年度からその効果が少しずつ現れているが、KPI②(美術館の年間来館者数)の向上に影響を及ぼしたとまでは言えない。</p> <p>○周知の強化に加え、他の観光施設と連携してインバウンドを取り込むなどの取組が必要である。</p> <p>○KPI②(美術館の年間来館者数)が大きく向上した要因としては、ピカソや葛飾北斎といった有名な作家・作品を主体とした展覧会や当館所蔵品の魅力を生かした展覧会を開催したことが大きく、その他ミュージアムタウン事業(各種イベントやモニターツアー誘致など)の実施や他美術館・サーカスとの連携、入館無料日の設定により、来館者数を増加することができた。</p>
交付金事業の成果の活用	<p>○新館常設展示作品を中心に英語表記を行う。</p> <p>○インバウンド来館者向けアンケートを実施し、今後の方向性の参考とする。</p>